

## 鳥取県の高校生のみなさんへ

みなさんは、鳥取県の大切な生徒です。青く澄み渡る日本海、緑豊かな山々、鳥取県の豊かな自然に囲まれた環境の中で、みなさんが地域の史跡、まちなみ、郷土芸能、伝統芸能等、鳥取県の貴重な地域資源に触れ、ふるさと鳥取の良さを感じ、誇りに思う心や態度を育んでほしいと願っています。そして、これからの鳥取県の未来を考へ、貢献しようとする心を養うとともに、社会における自らの役割や将来の生き方を確立してほしいと思います。

鳥取県教育委員会 教育長

## 鳥取県立〇〇高等学校のみなさんへ

- ・〇〇高等学校で卒業までに身につけてほしい力
- ・キャリア・パスポートを作成するねらい
- ・生徒たちへのメッセージ 等

大人のみなさまへ

子どもたち一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人も含め、様々な立場から生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割です。キャリア・パスポートを活用し、大人が対話的に関わりながら児童生徒が自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けられるようにしていきます。

令和2年4月

鳥取県立〇〇高等学校 校長 〇〇〇〇

## 高校生のみなさんへ

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きています。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものです。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもありますが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を積み重ねながら取り組んでいます。

人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会にかかわることになり、そのかかわり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものです。このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところです。

これからのますます変化の激しい社会の中で、主体的に自らの可能性を養い、よりよい社会や世界と幸福な人生の創り手となっていくために、みなさんには、キャリア形成の視点から、以下の能力をさらに伸ばしていくことが求められています。

《 高校生活でさらに伸ばしてほしい能力 》

<p><b>【人間関係形成・社会形成能力】</b></p> <p>多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達や家の人の意見を聞くとき、相手の立場を考慮して、その人の考えや気持ちを受け止めようとする。</li> <li>・自分の考えや気持ちを整理し、相手が理解しやすいよう工夫して、伝えようとする。</li> <li>・人と何かをするとき、自分がどのような役割や仕事を果たすべきか考え、分担しながら、力を合わせて行動しようとする。</li> </ul>	<p><b>【自己理解・自己管理能力】</b></p> <p>自分が「できること」「意識を感じること」「したいこと」について、社会と相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を振り返り、長所や短所を把握して、良いところを伸ばし、悪いところを克服しようとする。</li> <li>・自分がすべきことがある時に、喜怒哀楽の感情に流されず行動を適切に律し、それに取り組もうとする。</li> <li>・不得意なことでも、自ら進んで、取り組もうとする。</li> </ul>
<p><b>【課題対応能力】</b></p> <p>仕事をすすめる上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる能力</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調べたいことがある時、自ら進んで資料や情報を収集し、信ぴょう性が高く、かつ、必要な情報を取捨選択しながら活用できる。</li> <li>・何か問題が起こった時、次に同じような問題が起こらないようにするために、原因を調べ、課題を発見し、解決のための工夫ができる。</li> <li>・何かをする時、見通しをもつて計画し、評価・改善を加えながら行動ができる。</li> </ul>	<p><b>【キャリアプランニング能力】</b></p> <p>「働くこと」を担う意識を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力</p> <p>《例》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶことや働くことの意味について考えたり、様々な働き方や生き方があることを理解したり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。</li> <li>・自らの将来について具体的な目標をたて、社会の現実を視野におさめながら、その実現のための方法について考えている。</li> <li>・将来の目標の実現に向けて具体的な行動を起こしたり、それを振り返って改善したりする。</li> </ul>

みなさんには、授業や学校行事、部活動、地域活動などでの様々な体験や学びを通して、これらの能力を自ら成長させることを意識してほしいと思います。

そして、この「キャリア・パスポート」で、高校生活を見通したり振り返ったりしながら、学びの履歴を積み重ねていくことが、みなさんの今後の人生を創っていくための「道しるべ」になることを願っています。

高校〇年生 学年初め

記入日 年 月 日

○今年度の主な活動を記入し、年間を見通そう。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

○将来の自分を想像しよう。

	どんなふうになりたいか	そのために今から何をするか
1年後の私		
30歳の私		

○学年のはじめに、場面ごとに自分のどんな力を伸ばしたいかを考えよう。

(「高校生のみなさんへ」の中にある「高校生活でさらに伸ばしてほしい能力」等を参考にしてください。)

	人間関係形成 社会形成能力	自己理解 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
授業				
学校行事				
部活動等				
生活 家庭 地域				

○現在の興味・関心

○現在の進路目標

みなさんを応援する大人からのメッセージ

高校〇年生 学年振り返り

記入日 年 月 日

○1年間を振り返って、印象に残っていることをまとめよう。

	なにが	どうして(理由)
授業	↑	
学校行事	↑	
部活動等	↑	
生活 家庭 地域	↑	

○学年を振り返って、場面ごとに自分にどんな力が身に付いたかをまとめよう。

(「高校生のみなさんへ」の中にある「高校生活でさらに伸ばしてほしい能力」等を参考にしてください。)

	人間関係形成 社会形成能力	自己理解 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
授業				
学校行事				
部活動等				
生活 家庭 地域				

○地域社会や地元企業とのかわりの中で、社会における自らの役割や将来の生き方について考えたこと、これからの鳥取県の未来を考えたり、貢献しようと考えたりしたことについて記入しよう。

--

## 小学校から高等学校までの振り返り

記入日 年 月 日

○自分自身のこれまでを振り返って、「足跡」をまとめよう。

	一番心に残っていること	自分自身の成長にどのように影響したか
小学校	↑	
中学校	↑	
高等学校	↑	

○高等学校卒業後の進路先

--

○自分自身の「現在」と「将来」についてまとめよう。

	人間関係形成 社会形成能力	自己理解 自己管理能力	課題対応能力	キャリア プランニング能力
自分の よさ・強 み				
今後さらに 成長させたい力				

メモ

--

みなさんを応援する大人からのメッセージ

--

<p>将来、どのような生き方をしていきたいか</p>
<p>将来、社会にどのように貢献していきたいか</p>
<p>自分自身にとって、ふるさと鳥取の誇りや魅力とは何か</p>
<p>自分のできることで、よりよい鳥取県にするためにやってみたいこと</p>

みなさんを応援する大人からのメッセージ

総合的な学習(探究)の時間・課題研究 < 事前 >		記入日	年	月	日
「探究」・「課題研究」テーマ					
テーマ選定の理由					
取組を通じて特にどんな力を伸ばしたいか			理由		

総合的な学習(探究)の時間・課題研究 < 事後 >		記入日	年	月	日
探究した内容の概要(取組の流れや取組を通じて新たにわかったこと など)					
取組の過程で感じたこと・考えたこと(うまくいったことやそのときの気持ち、失敗したことやそこから学んだこと など)					
取組を通じてどんな力が伸ばせたか(成長したところ)					
探究活動の結果、新たに生まれた疑問や探究テーマ等					

みなさんを応援する大人からのメッセージ

インターンシップ <事前>

記入日 年 月 日

中学生時の職務体験先と得たこと

「働くこと」についての現在のイメージや考え

受入先

受入先選定の理由

インターンシップを通じて、どんなことを得たいのか

インターンシップを通じて、なりたい自分のイメージ（どう成長したいのか）

インターンシップ <事後>

記入日 年 月 日

インターンシップを通じて学んだこと（気づいたこと、よかったこと、反省したことなど）

受入先から自分の将来に向けてどのようなアドバイスをもたらしたか

「働くこと」についての現在の考え（体験を通じてどのように考えが変わったか・変わらなかったか）

現在考えている自分の進路にどのような影響があったか

受入先からのアドバイス

みなさんを応援する大人からのメッセージ

高校〇年生 ○学期振り返り

記入日 年 月 日

○今学期を振り返って、努力したこと・取り組んだこと・身に付いたこと・成長を感じたこと・今後取り組みたいことを場面ごとにまとめよう。

努力したこと 取り組んだこと	身に付いたこと 成長を感じたこと	今後取り組みたいこと
授業		
学校行事		
部活動等		
生活 家庭 地域		

○現在の興味・関心

○現在の進路目標

学校行事 ○○

<事前>

記入日 年 月 日

特に心がけて取り組もう（自分なりに努力してみよう）と  
思っていること

理由

そのために事前に準備すること

高校〇年生 校外活動  
- 地域活動・ボランティア等 -

記入日

年 月 日

○学校外における活動（地域活動・ボランティア等）についてまとめよう。

参加した地域活動・ボランティア等

内容

自分なりに取り組めたこと、よかったと思うこと

学校行事 ○○

<事後>

記入日 年 月 日

今回の体験・経験で最も心に残っていること

理由

自分が成長したと思うところ

今回の経験を踏まえて、今後に生かしていきたいところ

みなさんを応援する大人からのメッセージ

みなさんを応援する大人からのメッセージ

○この活動にかかわる人の中で、印象に残っているのは、どのような人ですか。

どのような人か

その理由

○よりよい社会又は地域にしていきたいために、今後取り組みたいこと

○この活動をおして、身に付いたこと、考えたことをまとめよう。

鳥取県「ふるさとキャリア教育」キャリア・パスポートの構成(県共通項目)

1ページ	2ページ	3ページ	4ページ	5ページ	6ページ	7ページ	8ページ	9ページ	10ページ
学活(3)・特活		地域(学校)						学活(3)・特活	
小1 初め *夢・目標		地域学習						小1 振り返り *地域について	
小2 初め *夢・目標		地域学習						小2 振り返り *地域について	
小3 初め *夢・目標		地域学習						小3 振り返り *地域について	
小4 初め *夢・目標		地域学習						小4 振り返り *地域について	
小5 初め *夢・目標		地域学習						小5 振り返り *地域について	
小6 初め *夢・目標		地域学習						小学校6年間の振り返り *地域について	
中1 初め *夢・目標		地域学習	職場体験					中1 振り返り *地域について	
中2 初め *夢・目標		地域学習	↕					中2 振り返り *地域について	
中3 初め *夢・目標		地域学習						小学校から中学校までの9年間の振り返り *地域について	
高1 初め *夢・目標		地域探究活動 地域課題解決型学習 地域貢献活動等	インターンシップ					高1 振り返り *地域について	
高2 初め *夢・目標								高2 振り返り *地域について	
高3 初め *夢・目標								小学校から高等学校までの振り返り *地域について	

留意事項	<p>○小学校から高等学校までの各学年末の各学年初めの各学年初めのシートは、「夢・目標」に関する記入項目を入れること。(県例示資料参考)その他の記入項目は任意でよい。</p> <p>○「小学校第6学年」、「中学校第3学年」及び「高等学校第3学年(最終学年)」の最終シートについては、全県で統一している様式を使用すること。なお、項目は追加してもよい。</p>
	<p>○文部科学省事務連絡「キャリア・パスポート」の例示資料等について(平成31年3月29日付)及び留意事項を参照すること。</p> <p>○「各シートはA4判(両面使用可)」に統一し、各学年での蓄積は数ページ(5枚以内)とすることから、5枚を必ず作成する必要はない。</p> <p>○児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を原通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする。</p> <p>○小学校入学から高等学校卒業まで、学年、校種を越えて持ち上がることができるものとする。</p> <p>○学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする。(①教科学習②教科外活動③学校外の活動の3つの視点で振り返り、見通しが持てるような内容とする)</p> <p>○大人(家族や教師、地域住民等)が対話的に関わることができるものとする。</p> <p>○各地域や学校の実情に合わせたカスタマイズや、各学校や学級における創意工夫を生かした形での活用が可能なものとなるよう検討すること。</p> <p>○「地域学習」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校種、地域とかわる学習のシートを入れること。記入項目は任意でよい。</li> <li>・中学2年生の「職場体験」に関するシートを入れること。その場合、「地域学習」と入れ替えてもよい。</li> <li>・高等学校における「総合的な学習(探究)の時間」、「課題研究」等で扱う地域探究活動、地域課題解決型学習、地域貢献活動等に関するシートを入れること。</li> <li>・高等学校における「インターンシップ」に関するシートを入れること。</li> </ul>





「ふるさとキャリア教育」における「キャリア・パスポート」 Q&A

令和2年1月  
鳥取県教育委員会  
高等学校課

▼シートについて

Q 年間5枚の中に、表紙や扉は入りますか。	A 入りません。蓄積するシート5枚以内は、各学年における活動記録のシートのことを指します。
Q 地域学習シートは、毎年1度は作成するのですか、それとも3年間のうち1度でよいのですか。	A 学校の実態に応じて作成してください。なお、卒業するまでの在学中に、1シート以上は作成する必要があります。また、学年を超えた連続性や関連性のある学習については、他学年においても作成するシートの5枚に含めることが考えられますので、それが適当であるかは学校で判断してください。
Q 電子データとして入力し、蓄積してもよいですか。	A 記入方法については、学校で判断してください。ただし、各シートは紙面で綴じ込みファイルに蓄積してください。電子データとして入力及び保存することも考えられますが、その場合、個人情報保護の観点から、セキュリティ管理は学校管理下で行ってください。
Q これまで、各学期や各学年末において生徒の振り返りに活用していたワークシート（ポートフォリオ）をそのままキャリア・パスポートに使用できますか。	A キャリア・パスポートに適していると判断した場合は使用しても構いません。ただし、共通シート及び共通項目等に留意しながら、学校目標等の実現を図るシートとして、適宜カスタマイズしてください。

▼綴じ込みファイルについて

Q 「キャリア・パスポート」は冊子のイメージがありますが、ファイリングでもよいですか。	A 冊子またはファイリングのどちらでもよいです。
Q 中学校から引き継がれるファイルは、県として統一したものでしょうか。	A 県として統一したものではなく、各市町村別または各学校別により、様々な形のファイルが高校に引き継がれることになります。

▼引き継ぎについて

Q 生徒が転学する場合、誰がどのように引き継ぎますか。	A 転学の際には生徒に返却し、学校間の引き継ぎは、原則、生徒を通じて行ってください。その際には、転学先へその旨を連絡してください。
Q 様々な背景（不登校、外国籍、県外中学出身者等）を持った生徒もいる中で、生徒がそれまで作成した「キャリア・パスポート」を高校に提出しない（引き継ぎをしない）という選択肢はあるのでしょうか。	A 原則、引き継いでください。 ※「ふるさとキャリア教育」における「キャリア・パスポート」（高等学校）5 指導上の留意点と管理（6）参照

▼管理について

Q 「キャリア・パスポート」は誰が管理するものですか。	A 原則、学校が管理してください。 ※「ふるさとキャリア教育」における「キャリア・パスポート」（高等学校）5 指導上の留意点と管理（5）参照
-----------------------------	---

### ▼作成及び活用時間の設定について

<p><b>Q</b> 「キャリア・パスポート」を生徒が記録するための時間は、特別活動の時間に設定しなければいけませんか。また、新規の取組として教育課程に位置付け実施するものですか。</p>	<p><b>A</b> 記録する時間は、必ずしも特別活動の時間に限るものではありません。</p> <p>※「ふるさとキャリア教育」における「キャリア・パスポート」（高等学校） 5 指導上の留意点と管理（1）及び（2）参照</p> <p>また、文部科学省事務連絡及び新学習指導要領の特別活動編のとおり、令和2年4月から全国の全ての小学校、中学校、高等学校において実施するものです。なお、これまで、特別活動等で年間や学校行事の目標を立てたり振り返り等をしたりしている学校は、その時間を「キャリア・パスポート」の作成や活用の時間に替えることができます。各学校の実情に応じて柔軟な対応をしてください。</p>
---	--

### ▼活用について

<p><b>Q</b> 高校で、中学校から引き継がれた「キャリア・パスポート」をどのように活用しますか。</p>	<p><b>A</b> 以下のような活用が想定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▼担任等が行う生徒の個人面談の参考にする。特に高校入学当初は、中学校卒業までの記録内容を参考にした生徒理解が可能となる。</li> <li>▼入学当初、中学校卒業までを振り返り、高等学校を見通した目標や具体的なスケジュールを立てる。</li> <li>▼インターンシップの際、中学校の職場体験学習を振り返り、事前に意欲を高めたり、事後の自己評価に生かす。</li> <li>▼総合的な学習（探究）の時間、課題研究等における地域に関連する学習に取り組む際、発達段階における地域とのかかわりを振り返り、高校生として地域における役割や貢献できることを考えることに生かす。</li> <li>▼高校卒業後の進路を考える際、自らの発達段階における夢や目標を振り返り、進路決定の材料とする。</li> </ul>
--	--

### ▼その他

<p><b>Q</b> 「キャリア・パスポート」と「eポートフォリオ」を同じものとして扱うことはできますか。</p>	<p><b>A</b> 作成及び活用目的が違うという点で同じものではないため、「キャリア・パスポート」をそのまま「eポートフォリオ」として扱うのは適切ではありません。なお、「eポートフォリオ」に記録した内容を「キャリア・パスポート」に活用することは可能です。</p> <p>※eポートフォリオ 高等学校での活動や学びのプロセスを電子上のデータとして蓄積するもので、調査書の電子版と言われており、今後、大学受験の際に提出が求められる予定になっているもの。</p>
<p><b>Q</b> うまく記入できない、提出ができない生徒がいる場合はどう対応すればよいですか。</p>	<p><b>A</b> 「キャリア・パスポート」は学習活動であるため、うまく書けない、紛失した等を想定して指導が行われるものであり、日常の学習指導に準じて、同様に配慮を行ってください。また、通級による指導を受ける生徒及び特別な配慮を要する生徒については、個々の障がいの状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた記録や蓄積となるようにしてください。なお、記録をそのまま学習評価とすることは適切ではありません。</p> <p>※「ふるさとキャリア教育」における「キャリア・パスポート」（高等学校） 5 指導上の留意点と管理（3）参照</p>



事 務 連 絡  
平成31年 3月29日

各都道府県教育委員会指導事務主管課  
各指定都市教育委員会指導事務主管課  
各都道府県私立学校事務担当課  
附属学校を置く国立大学法人附属学校事務担当課  
附属学校を置く公立大学法人附属学校事務担当課  
構造改革特別区域法第12条第1項の認定を受けた  
各地方公共団体株式会社立学校事務担当課

御中

文部科学省初等中等教育局児童生徒課

「キャリア・パスポート」例示資料等について

平素より、キャリア教育の充実に御協力をいただき、感謝申し上げます。

新学習指導要領（小学校及び中学校学習指導要領（平成29年3月公示）、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領（同年4月公示）、高等学校学習指導要領（平成30年3月公示）、特別支援学校高等部学習指導要領（平成31年2月公示）総則において、児童生徒が「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としてつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実に資すること」について明示されました。また、同特別活動においては、「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に、児童生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」とされたところです。

文部科学省においては、平成29年度から平成30年度にかけて「キャリア・パスポート（仮称）」普及・定着事業を実施し、児童生徒が活動を記録し蓄積する教材として「キャリア・パスポート」の在り方や活用方法について検討を進めてきたところです。

この度、文部科学省において、平成30年6月に設置した「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議の下、「キャリア・パスポート」の例示資料及び指導上の留意事項等について別添のとおり取りまとめましたので、送付します。詳細については、別添『「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項』を参照してください。本資料は、学校等における「キャリア・パスポート」作成の負担軽減の一助となるものと考えていますので、参考としてください。

なお、教材については、小学校から高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を越えて活用できるようなものとなるよう、各地域の実情や各学校及び学級における創意工夫を生かした形で活用されるものと考えていますので、各設置者におかれては、2020年4月までの実施に向け、本例示資料等を参考としつつ、各地域・学校の実情に応じた教材の作成等の準備に着手し、円滑な実施に御配慮くださるようお願いいたします。

また、このことについて、各都道府県教育委員会におかれては、域内の市町村教育委員会に対して、各都道府県私立学校事務担当課及び構造改革特別特区法第12条第1項の認定を受けた各地方公共団体株式会社立学校事務担当課におかれては、所轄の学校及び学校法人等に対して、速やかに御周知いただくようお願いいたします。

【本件担当】

文部科学省初等中等教育局児童生徒課  
（キャリア教育・進路指導担当）  
電話 03-5253-4111（内線4728）

## 「キャリア・パスポート」の様式例と指導上の留意事項

### 1 「キャリア・パスポート」の必要性と背景

平成 28 年 12 月に中央教育審議会は「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」を取りまとめた。

その中の特別活動ワーキンググループにおいては，特別活動において育成すべき資質・能力を確実に育む観点から，キャリア教育の中核的な指導場面として特別活動が大きな役割を果たすべきとの議論がなされた。同総則・評価特別部会においても，小・中・高等学校において発達の段階を踏まえたキャリア教育の推進を総則に位置付けることが検討された。キャリア教育は，ややもすると就業体験や進路指導といった狭いものとして捉えられがちであるが，本来，自らのキャリア形成のために必要な様々な汎用的能力を育てていくものであり，学校の教育活動全体を通して行うものである。このような中で特別活動がキャリア教育においてどのような役割を果たすべきかを明確に示す必要がある。そのために，小学校から高等学校までの特別活動をはじめとしたキャリア教育に関わる活動について，学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材（「キャリア・パスポート」）を作成し，活用することが効果的ではないかとの提案がなされた。

こうしたものが特別活動を中心としつつ各教科等と往還しながら活用されることで，学びを蓄積し，それを社会や将来につなぎ，必要に応じて振り返ることにより，主体的に学びに向かう力を育て，自己のキャリア形成に生かすことが可能となるとともに，特別活動や各教科等における指導の改善にも寄与することが期待された。また，小・中・高等学校やその後の進路も含め，学校段階を超えて活用できるようなものとなるよう工夫しつつ，各地域の実情に合わせたカスタマイズや，各学校や学級における創意工夫を生かした形での活用が可能なものとなるよう検討すべきとされた。

そういった検討を踏まえ，平成 29 年 3 月に小学校及び中学校学習指導要領，同年 4 月に特別支援学校小学部・中学部学習指導要領，平成 30 年 3 月に高等学校学習指導要領，平成 31 年 2 月に特別支援学校高等部学習指導要領が公示された。また，それと並行して「キャリア・パスポート」導入に向けた調査研究協力者会議を置いて，その内容などについて検討してきた。

### 2 名称

1 に示した「キャリア・パスポート」並びに小・中・高等学校及び特別支援学校における学習指導要領特別活動第 2〔学級活動・ホームルーム活動〕の 3 内容の取扱い（2）にある「（前略）児童（生徒）が活動を記録し蓄積する教材等（後略）」を「キャリア・パスポート」と呼ぶ。ただし，都道府県や設置者，各校において独自の名称で呼ぶことは可能とする。なお，特別支援学校における特別活動については，小・中学校及び高等学校に準ずることとしていることに留意する必要がある。

### 3 目的

小学校，中学校，高等学校学習指導要領，及び特別支援学校学習指導要領に「キャリア・パスポート」の活用については明記されている。例えば，中学校の場合は以下である。

中学校学習指導要領前文「（前略）生徒が学ぶことの意義を実感できる環境を整え，一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは，教職員をはじめとする学校関係者はもとより，家庭や地域の人々も含め，様々な立場から生徒や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼

児期の教育及び小学校教育の基礎の上に、高等学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、生徒の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに中学校学習指導要領を定める。」及び中学校学習指導要領第1章総則第3の1の(4)「(前略)生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を、計画的に取り入れるように工夫すること。」、中学校学習指導要領第5章特別活動第2〔学級活動〕3内容の取扱い「(2)2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、生徒が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」などを踏まえて「キャリア・パスポート」の目的を以下のように整理する。

小学校から高等学校を通じて、児童生徒にとっては、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につながるもの。

教師にとっては、その記述をもとに対話的にかかわることによって、児童生徒の成長を促し、系統的な指導に資するもの。

#### 4 定義

学習指導要領及び学習指導要領解説特別活動編から「キャリア・パスポート」の定義を次のように整理する。

「キャリア・パスポート」とは、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。

なお、その記述や自己評価の指導にあたっては、教師が対話的に関わり、児童生徒一人一人の目標修正などの改善を支援し、個性を伸ばす指導へとつなげながら、学校、家庭及び地域における学びを自己のキャリア形成に生かそうとする態度を養うよう努めなければならない。

なお、「キャリア・パスポート」は、学習指導要領特別活動第2〔学級活動・ホームルーム活動〕3内容の取扱い「(2)2の(3)の指導に当たっては、学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童(生徒)が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。」の意義を3点明記しているので必ず確認すること。

#### 5 内容

別添に様式例を示したが、これはあくまでも例示である。学習指導要領解説特別活動編「(前略)こうした教材については、小学校から高等学校卒業(特別支援学校を含む。以下同じ。)まで、その後の進路も含め、国や都道府県教育委員会等が提供する各種資料等を活用しつつ、各地域・各学校における実態に応じ、学校間で連携しながら、柔軟な工夫を行うことが期待される。」

のとおり、都道府県教育委員会等、各地域・各学校で柔軟にカスタマイズされることを前提とする。

- (1) 児童生徒自らが記録し、学期、学年、入学から卒業までの学習を見通し、振り返るとともに、将来への展望を図ることができるものとする
  - ▶ 児童生徒が記録する日常のワークシートや日記、手帳や作文等は、「キャリア・パスポート」を作成する上での貴重な基礎資料となるが、それをそのまま蓄積することは不可能かつ効果的ではなく、基礎資料を基に学年もしくは入学から卒業等の中・長期的な振り返りと見通しができる内容とすること
- (2) 学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容とする
  - ▶ 教科・科目のみ、学校行事等のみの自己評価票とならないように留意すること（①「教科学習」、②「教科外活動（学校行事、児童会活動・生徒会活動やクラブ活動、部活動など①以外の学校内での活動）」、③「学校外の活動（ボランティア等の地域活動、家庭内での取組、習い事などの活動）」の3つの視点で振り返り、見通しが持てるような内容とすること
  - ▶ 特別活動を要としつつ各教科・科目等と学びが往還していることを児童生徒が認識できるように工夫すること
- (3) 学年、校種を越えて持ち上がることができるものとする
  - ▶ 小学校入学から高等学校卒業までの記録を蓄積する前提の内容とすること
  - ▶ 各シートはA4判（両面使用可）に統一し、各学年での蓄積は数ページ（5枚以内）とすること
- (4) 大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わるができるものとする
  - ▶ 家族や教師、地域住民等の負担が過剰にならないように配慮しつつも、児童生徒が自己有用感の醸成や自己変容の自覚に結び付けられるような対話を重視すること
- (5) 詳しい説明がなくても児童生徒が記述できるものとする
- (6) 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合にはその内容及び実施時間数にふさわしいものとする
  - ▶ 学習指導要領解説特別活動編を必ず確認すること
- (7) カスタマイズする際には、保護者や地域などの多様な意見も参考にすること
- (8) 通常の学級に在籍する発達障害を含む障害のある児童生徒については、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じて指導すること。また、障害のある児童生徒の将来の進路については、幅の広い選択の可能性があることから、指導者が障害者雇用を含めた障害のある人の就労について理解するとともに、必要に応じて、労働部局や福祉部局と連携して取り組むこと
- (9) 特別支援学校においては、個別の教育支援計画や個別の指導計画等により「キャリア・パスポート」の目的に迫ることができると考えられる場合は、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた取組や適切な内容とすること

## 6 指導上の留意点と管理

別添に参考を示したが、これはあくまでも学級活動・ホームルーム活動の内容（3）「一人一人のキャリア形成と自己実現」で想定される大まかな活動の流れを例示したものである。なお、学習指導要領解説特別活動編を必ず確認して指導に当たることとする。

- (1) キャリア教育は学校教育活動全体で取り組むことを前提に、「キャリア・パスポート」やその基礎資料となるものの記録や蓄積が、学級活動・ホームルーム活動に偏らないように留意すること
  - ▶ 学級活動・ホームルーム活動以外の教科・科目や学校行事、帰りの会やショートホームルーム等での記録も十分に考えられる
- (2) 学級活動・ホームルーム活動で「キャリア・パスポート」を取り扱う場合には、学級活動・ホームルーム活動の目標や内容に即したものとなるようにすること
  - ▶ 記録の活動のみに留まることなく、記録を用いて話し合い、意思決定を行うなどの学習過程を重視すること
- (3) 「キャリア・パスポート」は、学習活動であることを踏まえ、日常の活動記録やワークシートなどの教材と同様に指導上の配慮を行うこと
  - ▶ 児童生徒個々の状況を踏まえ、本人の意思とは反する記録を強いたり、無理な対話に結び付けたりしないように配慮すること
  - ▶ うまく書けない児童生徒への対応や学級（ホームルーム）・学年（学科）間格差解消等も日常の指導に準じること
  - ▶ 特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒等、特に特別な配慮を要する児童生徒については、個々の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた記録や蓄積となるようにすること
  - ▶ 学習指導要領解説特別活動編にあるように「キャリア・パスポート」は自己評価、学習活動であり、そのまま学習評価とすることは適切でないこと
- (4) 「キャリア・パスポート」を用いて、大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わること
  - ▶ 記録を活用してカウンセリングを行うなど、児童生徒理解や一人一人のキャリア形成に努めること
  - ▶ 学級活動・ホームルーム活動の時間の中で個別の面接・面談を実施することは適切でなく、「キャリア・パスポート」を活用した場合においても同様と考えること
- (5) 個人情報を含むことが想定されるため「キャリア・パスポート」の管理は、原則、学校で行うものとする
  - ▶ 個人情報の保護や記録の紛失に十分留意すること
- (6) 学年、校種を越えて引き継ぎ指導に活用すること
  - ▶ 小学校入学から高等学校卒業までの記録を引き継ぎ学びの振り返りや見通しに生かすこと
- (7) 学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行うこと
- (8) 校種間の引き継ぎは、原則、児童生徒を通じて行うこと
  - ▶ ただし、小学校、中学校間においては指導要録の写しなどと同封して送付できる場合は学校間で引き継ぐことも考えられる
  - ▶ 校種間の引き継ぎに当たっては、入学式前後の早い段階での提出を求め、児童理解、生徒理解に活用すること
- (9) 装丁や表紙等についても、設置者において用意すること。その際には、一定の統一性が保たれるよう工夫すること

## 7 実施時期

本資料を参考に、都道府県教育委員会等、各地域・各学校で柔軟にカスタマイズし、2020年4月より、すべての小学校、中学校、高等学校において実施することとする。ただし、準備が整っていたり、既存の取組で代替できたりする場合は平成31年4月より先行実施できるものとする。なお、先行実施に当たっては都道府県等や設置者一律でなくとも各学校の判断で行うことができることとする。

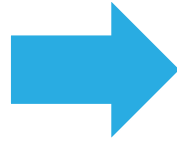


# キャリア教育における教材

活動を促す組織的・体系的な働きかけと、それを支える教材が必要

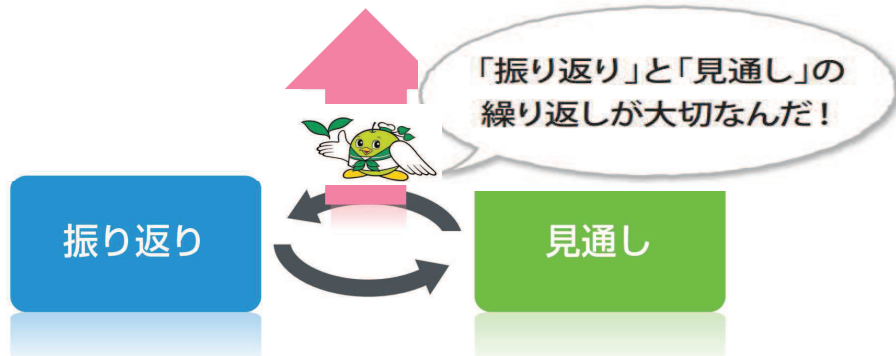
## 基礎的・汎用的能力

- ① 人間関係形成・社会形成能力
- ② 自己理解・自己管理能力
- ③ 課題対応能力
- ④ キャリアプランニング能力



## 既存の取組として 今ある宝 ポートフォリオ

- ▶ その時々活動を記録・蓄積
- ▶ 未来への見通し
- ▶ 日々、学期、学年ごとの振り返り
- ▶ 学校種を超えて、積み重ね



# 「キャリア・パスポート」について

## 背景（新学習指導要領抜粋）

- 新学習指導要領 総則（小学校、中学校、高等学校、特別支援学校（小・中・高等部））  
児童生徒が、「学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていく」ことができるよう、特別活動を要としてつづつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること」
- 新学習指導要領 特別活動（小・中学校、高等学校、特別支援学校（小・中・高等部））  
「学校、家庭及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行う」際に、児童生徒が「活動を記録し蓄積する教材等を活用すること」

「キャリア・パスポート」の例示資料等を作成（H31年3月、全都道府県教育委員会等に周知）

中学3年生 学期初め		中学3年生 学期を振り返ろう	
記入日	年 月 日	記入日	年 月 日
○今の自分を見つけて 今の自分（自分の好きなこと・もの、得意なこと・もの、頑張っていることなど）		○今学期を振り返って 学期初めに身につけようと思ったことについて、自分の気持ちに一番近いところを○をつけよう	
私の自己PR（自分のよいところ）		学習面で 身につけようと思ったことが身についたと思う	
こんな大人になりたい（将来の夢）	そのために、つきたい力	生活面で 身につけようと思ったことが身についたと思う	家庭や地域で 身につけようと思ったことが身についたと思う
○なりたいたい自分になるために身につけたいこと（目標）と、そのために取り組みたいこと		その他（面白い事・資格取得など）で 身につけようと思ったことが身についたと思う	
学習面の目標	そのために	○各項目の振り返りと、今後、挑戦・行動しようと思うこと	
生活面の目標	そのために	学習面で	今後は
家庭・地域での目標	そのために	生活面で	今後は
その他（面白い事・資格取得など）の目標	そのために	家庭や地域で	今後は
先生からのメッセージ	保護者などからのメッセージ	その他（面白い事・資格取得など）で	今後は
		今学期を振り返って、新しく発見したこと、気づいたこと	
		先生からのメッセージ	保護者などからのメッセージ

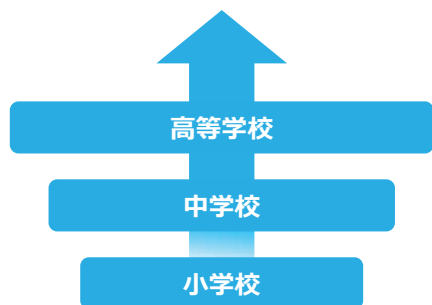
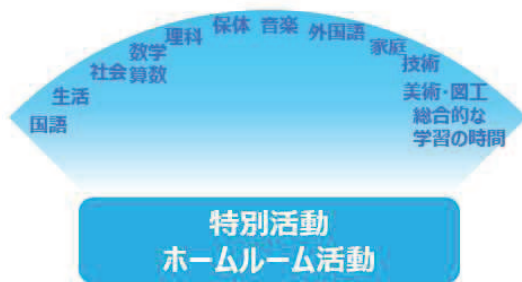
例：中学3年生(学期初め・学期末)

## 「キャリア・パスポート」

児童生徒が自らの学習活動等の学びのプロセスを記述し振り返ることができるポートフォリオ的な教材

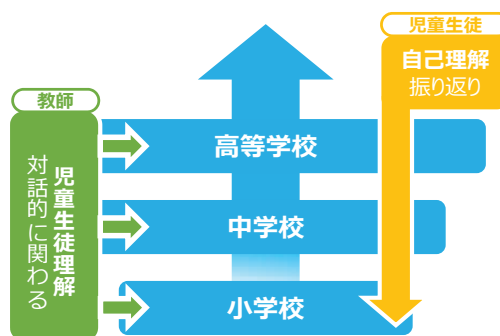
- 記述するワークシートは児童生徒の発達段階を踏まえた構成とし、小学校から高等学校までの「学びの記録」とする
- ワークシートの散逸を避け、有効に振り返りができるように小学校から高等学校までの記録を一冊に綴り込むこととする
- 国及び教育委員会が示すワークシートを参考としてつづつ、地域の実情や各学校の特色等に応じたワークシートを作成する
- 進級進学時には、次の学年・上級学校に持ち上がり、継続的かつ系統的に蓄積する

一つ目は、学校の教育活動全体で行うキャリア教育の要としての特別活動の意義が明確になることである。



二つ目は、小学校から中学校、高等学校へと系統的なキャリア教育を進めることに資するということである。

三つ目は、児童生徒にとっては自己理解を深めるためのものとなり、教師にとっては児童生徒理解を深めるためのものとなることである。



## 鳥取県における「キャリア・パスポート」統一項目・シートについて

○鳥取県では、学校段階を越えて活用するために、「小学校第6学年」、「中学校第3学年」及び「高等学校第3学年（最終学年）」の最終シート（3シート分）については、全県で統一する。

○ふるさとキャリア教育の充実を図るため、このキャリア・パスポートを活用する。各学校で実施されるふるさとに関する学習を行った後、子どもたちの記録を残すことで、ふるさと鳥取に誇りを持ち、未来を創造する児童生徒の育成につなげることとする。

○職場体験に関する内容を記載するシートを設ける。（中学校）

○年度初めのシートに、夢や目標について記載する項目を設ける。

○年度終わりのシートに、地域に関する内容を記載する項目を設ける。

小低学年 → がっこうや いえのちかくの すきなところや すきなひとを かきましよう。

小中学年 → 自分の住む地域のよいところやすきなところを書きましよう。

小高学年 → 自分の住む地域社会や鳥取県について学び、ふるさとの魅力を実感したことや、地域のために自分にできることを考えて書きましよう。

中学校 → 地域社会に対して理解を深めたことや、自己の生き方について考えたことを書きましよう。また、ふるさと鳥取の課題解決のためにやったことや自分にできそうなことを書きましよう。

高等学校 → 地域社会や地元企業とのかかわりの中で、社会における自らの役割や将来の生き方について考えたこと、これからの鳥取県の未来を考えたり、貢献しようと考えたことについて記入しよう。

## 中学校から高等学校への引き継ぎ 令和2年度末→令和3年度初め 開始

▼中学卒業時、本人に返却され、入学生徒が高校入学時に担任等に提出。

### →中学校の先生方へ

生徒への返却時に、「紛失に注意し、高校入学時に提出すること」について、指導をお願いします。

### →高校の先生方へ

「入学時提出物一覧」に「キャリア・サポート」を追加し、入学生徒への周知をお願いします。

## 高等学校において想定される活用場面

- ▼担任等が行う生徒の個人面談の参考にする。特に高校入学当初は、中学校卒業までの記録内容を参考にした生徒理解が可能となる。
- ▼入学当初、中学校卒業までを振り返り、高等学校を見通した目標や具体的なスケジュールを立てる。
- ▼インターンシップの際、中学校の職場体験学習を振り返り、事前に意欲を高めたり、事後の自己評価に生かす。
- ▼総合的な学習（探究）の時間、課題研究等における地域に関連する学習に取り組む際、発達段階における地域とのかかわりを振り返り、高校生として地域における役割や貢献できることを考えることに生かす。
- ▼高校卒業後の進路を考える際、自らの発達段階における夢や目標を振り返り、進路決定の材料とする。

## 今ある基礎シートを基に少しの工夫を！

保護者の方からのメッセージ

指導ボランティアの方からのメッセージ

中・長期的な振り返りと見通しができる内容？



取捨選択・再編集

大人（家族や教師、地域住民等）が対話的に関わるができるもの？

5日間よくがんばりました。誰かの役に立つ喜びを実感した5日間だったね。いろいろな人に関わりながら、たくさんのことを考えたと思います。それは、これから〇〇が生きていく中で、必ず役に立つときが来ると思うよ。

5日間で学んだことをこれからの学校生活や家庭生活の中で大いに生かしてほしいと思います。仕事のやりがいは、自分から進んで、意欲的に取り組む姿勢の中から生まれるものです。その点、〇〇さんは、大変積極的に取り組んでいました。おつかれ様でした。

## おわりに

この冊子では、令和元年度から運営されている「ふるさとキャリア教育」について冒頭第1編で触れ、続く第2編では、過去から現在へとつながる「鳥取県キャリア教育推進会議」の成果や所産を「知の財産」として収録、更に最終第3編で「未来につながるキャリア教育のツール活用の道標」として「キャリア・パスポート」の活用を説明しています。これら三編を一冊に収録することでふるさとキャリア教育の“一里塚”、さらには“現在から未来への橋渡し”としたという意味を込めて作成したものです。本冊子を通読していただくことで、ふるさとキャリア教育の過去から現在を概観し、未来の入り口をも見ていただいたものと思います。

近年、県内高校卒業生数は5,000人を割り、県外への若者の流出が続いています。ふるさと鳥取への思いや愛着を持たせる教育を進めてほしい、結果として県外での生活を選択したとしても、学んだ学校や地域の人との関わりや体験等、ふるさとへの思いを持って成長を続けてほしい、というのが多くの県民の願いではないでしょうか。

県内高等学校教育関係者が、本冊子の内容や情報を汲み取り、今後各人の置かれた教育現場で議論を深めていただくことを期待しています。併せて、令和2年度から始まる「キャリア・パスポート」を活用した「ふるさとキャリア教育」について、生徒にとって効果のある取組となるよう、本冊子の提示する情報が、多方面で参考にされ、有効に活用されることを祈っています。

令和2年3月

鳥取県教育委員会事務局

高等学校課キャリア教育担当